

第1回愛知県観光振興推進本部会議（H20.11.17）

<発言要旨>

愛知県観光振興推進本部の設置及び第1回会議の開催に当たり、一言あいさつとお願いを申し上げます。

ご案内のとおり、先の9月定例県議会において、愛知県観光振興条例が可決、成立をいたしました。議員提案によるもので、34年ぶりの議員提案による政策条例に、まずもって「観光振興」が採り上げられたことは大きな意義があります。

若干、国で大きな動きがございますが、平成19年1月に、「観光立国推進基本法」が制定され、その年の6月に、法に基づく「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。さらに先月、10月1日には国土交通省に観光庁が設置されました。そして、観光推進に着々と制度面、あるいは組織面の整備が行われたところでございます。

国のこのような動きの背景には、経済の活性化や、あるいは雇用機会の増大に、観光が役割を果たすと、そういう認識があると思います。そこで、まずは魅力ある国づくりをしようと、そうすることによって、本県への来訪者を招こう、交流を盛んにしようという趣旨でございます。

これは国だけでなく地方、地域についてもそのまま当てはまることで、本県における条例制定は、まさに時宜を得たものと考えておりますし、県議会、あるいは県民の皆様方の観光に対する期待の表れに他ならないと思っております。

観光を切り口に、魅力ある地域づくりを進めることによって、より多くの方々を本県に呼び込み、交流を生み出していく。そうしたことによって、経済面はもとより、精神的な豊かさも持ち合わせた地域を作っていく、そういうことではないかと考えております。よろしく申し上げます。

来年10月には日中韓観光大臣会合の開催が予定され、2010年には、COP10、さらに、国際芸術祭が開催されます。国内外からの多くの来訪が期待でき、観光振興には絶好の機会を迎えている訳でございます。

ただ、一口に「観光」と申しましても、裾野は大変広うございます。産業面で捉えれば、交通事業者、宿泊業者、飲食店等幅広い業種、業態に関わりがございますし、観光そのものの形態も温泉、景観を楽しむといった従来のものに加え、産業観光、武将観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズムといった新しいスタイルのものが生まれています。そういう意味で総合的な仕事になると思いますが、真剣に取り組んでいただき、加えて愛知を国内外に発信していただければと思います。

そこで、中長期的な視点に立った、機動的かつ効果的な観光振興を展開するために、このたび推進本部の立上げを決意した次第であります。

この推進本部の下で、各部局が情報を共有し、連携・協力を密にしながら、それぞれの立場で観光振興に何が必要で、どうやっていくのか、条例の趣旨がいかされ、本県がモノづくりからモノづくりに加えて観光でも国の内外に発信できる地域になっていくものと信じていますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

○観光の担当部局として一言皆様方をお願いする。経済状況は非常に厳しい状況ですが、こういう状況の中で観光というのはすべての地域に関係する産業で、地域活性化の1つの起爆剤として使えるのではないかと思います。今年度、来年度以降、地域活性化に向けて、地域がアイデアを出し、それぞれが観光振興を図っていく、こういった動きを県としてどう支援できるのか、皆様方にご検討をお願いしたいと思う。観光は、外に向けていく産業なので、いかに愛知県をPRしていくのか。特に日中韓大臣会合は広域観光で中部をどう売り出していくか、施策を考えていく機会であると思う。皆様のご協力をお願いしたい。

○文化芸術はまさに観光交流の点から重要な観光資源の一つ。2010年にビエンナーレの初回を開催する。県内はもちろん、国内外からは是非多くのお客さんに来て欲しい。ビエンナーレだけでなくいろんな観光地と連携した取組みをしていきたい。国際女性映画祭は中部圏で唯一の国際映画祭だが、グレードアップしていきたい。陶磁器資料館なども役割を果たせると思う。旅行業者とタイアップして、旅行業者が発行するクーポン券を利用して、ツアーの中に陶磁資料館も盛り込んでもらっている。

- 農村、漁村に来ていただくことは、農林水産業の活性化につながる。昨年 11 月にホームページの中で、愛知の都市・農村交流体験を立ちあげた。農林水産物、伝統文化などの地域資源を約 700 件のせている。それらを結ぶモデルルートは約 50。産直の施設、ふれあいの施設も紹介している。みかん狩り、イモ掘りなどを体験できる施設を約 100 箇所紹介している。産直施設は年間で約 3300 万人、ふれあい施設には 620 万人の方々にご利用いただいている。イベントとしては、11 月初めの「ふるさと農林フェア」は約 3 万人、春の恒例の「フラワードーム」は約 15 万人の来場者がある。こういう機会を通じて観光というものを農山漁村の活性化の 1 つの有効な手段として考え、取り組んでいきたい。

- 文化財保護の関係では国、県指定の文化財についてそれぞれプレートなどで説明し、皆様方によくわかるような形にしている。図録をネットで公開している。観光の点からしっかりやっていきたい。外国人の来訪者を増やす点では、オーストラリアのビクトリア州との教育交流事業を進めている。日中韓の話がありましたが、平成 23 年度に日中韓の高校生のスポーツ交流を行うよういろいろ検討している。

- 観光を見る対象として、モリコロパークのような公園とか、サイクリングロード。観光地に行く途中には、港、道路とかやっている。道路でも最近では風景街道とか、写真を撮るパーキング（「とるぱ」）がある。ソフトの政策としては、屋外広告条例、町並み景観とかをやっている。つくるだけでなく、文化の愛知として、いろいろな形で考えていきたい。

- 平成 7 年に人に優しい街づくり条例を出して、県民や事業者の理解もだいぶ深まってきたのではないか。例えば、ホテル、旅館の新しいところについては、高齢者はもちろん、車イスの方が宿泊しやすいようになっている。そういうところを売りにしている旅館もある。引き続き観光旅行者に利用しやすい施設整備に取り組みたい。

- 先ほど、エコツーリズム、COP10のお話が出たが、観光を考える場合、海外から、県外から、そして県内の方々の 3 類型があるが、COP10では海外から、県外からの多くの方々が来る。数千人が集まるということで、これ自体が一つの観光。環境というテーマは重要だが、それ以外の観光についても発信していきたい。是非とも、COP10をこの地域の観光支援について情報発信する場として次につなげ

るステップ台として位置づけていく必要があると考えている。そういった観点で実施計画の中に積極的に位置づけていきたいし、また、ご提案をいただきたい。最近の環境志向の高まり、高齢化社会の進展で身近な自然を親しむことから、自然歩道や様々な自然の環境を親しめる施設整備も行っている。

○産業労働部長からお話があったが、観光は地域活性化の重要な要素。地域振興部としてもしっかりと連携していきたい。また、中部国際空港や県営空港の利用促進と不可分であって、エアポートセールスに加え観光振興の点からインバウンド対策をしっかりと取り組んでいく。山村振興の点からも大きな柱となって役割を果たす必要があると思う。

○子供や高齢者の方々の点からは、弥富市と幡豆町に「こどもの国」があり、春祭りや秋祭りと多彩なイベントを行っている。大変多くの子供連れの家族の方々に利用していただいている。また、高齢者向けの宿泊施設「ピラマリー南知多」があり、多くの高齢者の方に親しまれている。県民の方の余暇活動について観光を通して施設の活性化をやっていきたい。

○条例第8条では市町村の連携があり、限られた財政状況の中で、いかに効率的、効果的に考え、やっていくか、市町村でも観光事業を行っているので、連携を図っていただきたい。資源の有効活用が大事。

○健康担当局での観光活性化は、「愛知県健康プラザ」。平成17年度に国のモデル事業を行っている。ハード・ソフト面でも全国に発信できる施設として、今後とも健康の森の活性化を図っていきたい。

○具体的な事業を特にもっているわけでないが、新しい政策課題の進行管理をしている点から申し上げますと、去年の新しい政策課題の中でいちばん大きいのは観光交流。人口が減少していく社会の中で、経済を成長し、地域を活性化するのは交流を図るしかない。最大のポイントは観光。外需から内需拡大に目を向けて、観光に期待している点では、各県同じ状況であり、これは地域間での競争。先ほど本部長からお話があったが、新しい観光の形態、武将観光、あるいは産業観光など、いかにして愛知をうちだしていくのか、特殊性を出していくのが大切と感じている。

○愛知県の独自性を出さないと他県と競争しても勝てない。いろんな資源をうまく使っていていき、本県の独自性をだせるようにして欲しい。例えば、豊橋市が「ええじゃないか」を通して、伊勢市と環伊勢湾のネットワークで動いている。そういうことも含めて、環伊勢湾ということも考えていく必要がある。県だけではやってはいけないので、市町村、観光協会、商工会議所など関係者との連携が必要。そのあたりをうまくやってほしい。

○いろいろなお話がでたが、どれももっともな内容で、今出たもので議論は尽きる。どう実行していくのか。来年度は観光基本計画を策定することになるが、まず当面は、より充実したものになるよう、あるいは実践的なものになるよう、引き続き皆さんに知恵をいただきたい。それから、観光というのは、福祉、環境などにも関係している。仕事を進める上で、常に人の賑わい、人の交流だとかを念頭において、観光という視点でものごとを計画し、進めていただきたい。何はともあれ、観光振興対策を全庁一丸となってしっかり進めていただきたい。よろしく願います。